

マイスター・ハイスクールだより

令和5年度 第2回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

11月1日(水)、第2回運営委員会をオンラインで開催しました。

開会に当たり、副委員長の厚岸漁業協同組合長である蔵谷副委員長が、「9月に行われた全国豊かな海づくり大会北海道大会における厚岸翔洋高校の生徒及び先生方の協力に感謝申し上げるとともに、この大会を機に、今後、厚岸の水産業の持続的な発展と地域の活性化が図られることを期待したい。」と述べられました。

委員会では、厚岸翔洋高校の山本校長から今年度の計画の取組状況や評価についての説明があり、他の委員及び和田CEOからの助言等がありました。



全国豊かな海づくり大会北海道大会
厚岸翔洋高校ブース展示の様子

山本校長による説明

今年度計画した、3つの柱に基づく各取組について、概ねスケジュール通り進行していることが報告され、事業終了後における事業内容の持続化や自走化に向けた方向性が示されました。

<取組状況>

水産資源の持続化

★海ログの活用

- ・水産物の生育に重要な要素である、水温、有害プランクトン、クロロフィル、流速の観測
- ・漁の可否の参考となる、海況の撮影
- ・漁業者へデータの提供(実際に専用アプリにアクセスして活用)
- ・スマートTVを活用した観データ等の発信について、和田CEOが遠隔講義

※スマートTV：インターネット接続でアプリやコンテンツが利用できる。



和田CEOによる遠隔講義

漁家経営の持続化

★製造メーカーによるプールや海ログ設置海域での水中ドローンの実技指導

- ★体育館や屋外での空中ドローンの操縦練習
- ★ドローンを用いたスマート漁業の可能性について漁業者や水産試験場の方々と交流、意見交換



漁業者や水産試験場の方々との意見交換



空中ドローンの操縦練習

地域経済の持続化

★未利用・低利用資源であるアメマスを使った商品開発及び町内での販売を計画

- ★ホエイ、脱脂粉乳を使用した商品、料理等の開発
- ★高付加価値化のために、製造上の安全性確保のための講義を実施



様々な揚げかまぼこを試行錯誤



水中ドローンを海ログの位置まで操縦する様子

<事業終了後における内容の持続化や自走化に向けた方向性>

- カリキュラムの再構築や、生徒の意識の変容も含めた事業の成果に対する関係機関からの指導・助言を基に、今後、修正や新たな取組を検討する。
- 関係機関から指導・助言を受けながら、体系的な学習方法や実施体制の在り方を確立し、地域における、スマート漁業や、水産物の高付加価値化を推進する核となる人材育成を目指す。

運営委員からの助言・感想等

- 今後は、ドローンの技術が実際の漁業の場面で活用されるようになる。漁業者がどうということを知りたいと考えているのかなど、意見交換をしながら取組を進めてほしい。【行 政】
- 未利用資源を商品化して売ることはハードルが高いことであるが、「たまにある」こと自体を上手く付加価値に結び付けるなど、試行錯誤すること自体に非常に大きな価値がある。【行 政】
- 海の環境が非常に大きく変化している状況下では、海のモニタリングをすることで、漁場管理を自動化、スマート化していく必要があることをアピールしてほしい。【行 政】
- 獲れても利用価値がないなどの理由で市場に出回らない未利用魚が活用されることは、漁業者の収入向上の面から、非常に有意義なものになる。【行 政】
- 開発した商品を販売している様子などがテレビ放映され、生徒の取組を道民に知っていただくよい機会になった。メディアを活用したPRが非常に重要なため、今後も継続してほしい。【産業界】
- 未利用魚等の有効利用方法の開発により、町内飲食店でのメニュー化が実現できれば、観光素材の確立や地域活性化につながる。飲食店でのメニュー化の実現を積極的に行ってほしい。【産業界】
- 工程表が堅実に進められており、成果も確実に積み上がっている。これらの事業が将来、カリキュラムに取り込まれることにより、地域産業をけん引する職業人の持続的な育成につながる【行 政】
- チーズなどを製造する際の副産物であるホエイを活用した取組では、ホエイには一夜干しの魚臭を低減したり、身をふっくらさせたりするなどの効果があるので参考にしてほしい。【行 政】
- 「夏まつり」や「牡蠣まつり」といったイベントに積極的に参加、協力して連携を図ることで、地域への貢献を一層深めてほしい。【行 政】
- 東京水産振興会の水産・海洋高校缶詰瓶詰図鑑のウェブページに、小樽と函館の水産高校が掲載されている。厚岸翔洋高校も全国に活動を紹介するという意味で掲載を検討してほしい。【行 政】
- 高水温の影響で魚類の漁獲量が低迷する一方、カキやアサリなどの養殖漁業は水揚げを堅持している。養殖漁業を将来にわたって続けていけるかが今後の厚岸の漁業の振興につながる。【産業界】
- 漁業者の中にも若い漁業者がいるので、事業が終了しても高校の実践や情報を提供していただき、将来漁業に従事する就業者育成のために取組を継続してほしい。【産業界】

和田CEOによる現状報告等



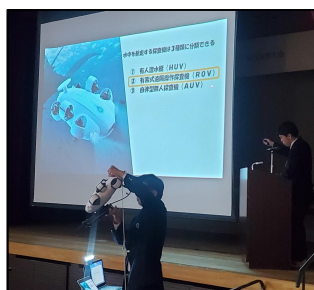
和田CEO

運営委員から助言・感想等を受けた後に、和田CEOから、現状についての報告等がありました。

- 1年目より情報共有ができてつつあり、生徒を中心とした取組になってきている。
- 生徒の活躍のために支援をお願いするとともに、生徒と一緒に活動できるよう努めていきたい。
- 目標に対する数値については、生徒の活動量に伴って上がってくるものと思われる。

北海道高等学校水産クラブ研究発表大会で優良賞受賞

11月10日(金)に北斗市で開催された水産クラブ研究発表大会において、海洋資源科の3年生が発表した「スマート水産業への取組 ～ドローンを活用した新たな漁業への道～」が優良賞を受賞しました。発表では、40歳未満の漁業者が全国的に減少しているにも関わらず、厚岸町では減少傾向にないことに注目し、スマート水産業の若い世代への導入は行いやすいのではないかと考察するとともに、後輩達の実習の参考となるような取組をしていきたいとの発表がありました。



ドローンについて説明する様子

山本校長による総括



山本校長

最後に、山本校長から今後の取組に向けて総括がありました。

- 実際に地域の現場から刺激を受けることによって生徒の意識が変革していくことに期待したい。
- 積極的な情報発信のためのスマートTVの設置、漁業者による技術指導や情報交換、海ログやスマートブイによるデータの分析や活用について、御協力と御支援をお願いしたい。

メディアを活用したPR



10月20日、厚岸の特産物を手軽に食べてもらうことを目的に試作した「牡蠣むすび」と「カキンパ！」が、テレビ中継で全道に紹介され、11月16日から「カキンパ！」全道で販売されました。